

高浜発電所3号機 これまでの保全活動と長期保守管理方針の概要

<プラント概要図>

原子炉容器上蓋

上蓋用管台の応力腐食割れに対する予防保全処置として、第18回定期検査時(2007年度～2008年度)に取替を実施。

蒸気発生器伝熱管

蒸気発生器の伝熱管は600系Ni基合金を使用しており、応力腐食割れ対策として、第13回定期検査時(2001年度)にショットピーニングを行ない引張り残留応力の低減を図った。

応力腐食割れ等が顕在化することが否定できないことから、長期的対策として蒸気発生器の取替えを含めた保全方法を検討する。(中長期)

低圧タービンロータ

低圧タービンロータの応力腐食割れに対する予防保全処置として、第19回定期検査時(2009年度)に取替を実施。

主変圧器

コイル絶縁紙の寿命評価に基づき、主変圧器を取替える。(短期)

原子炉容器監視試験

原子炉容器の中性子照射脆化を考慮し、これまで4回の監視試験片の取り出しを実施し、これらの試験結果に基づき原子炉の安全性に問題がないことを確認した。

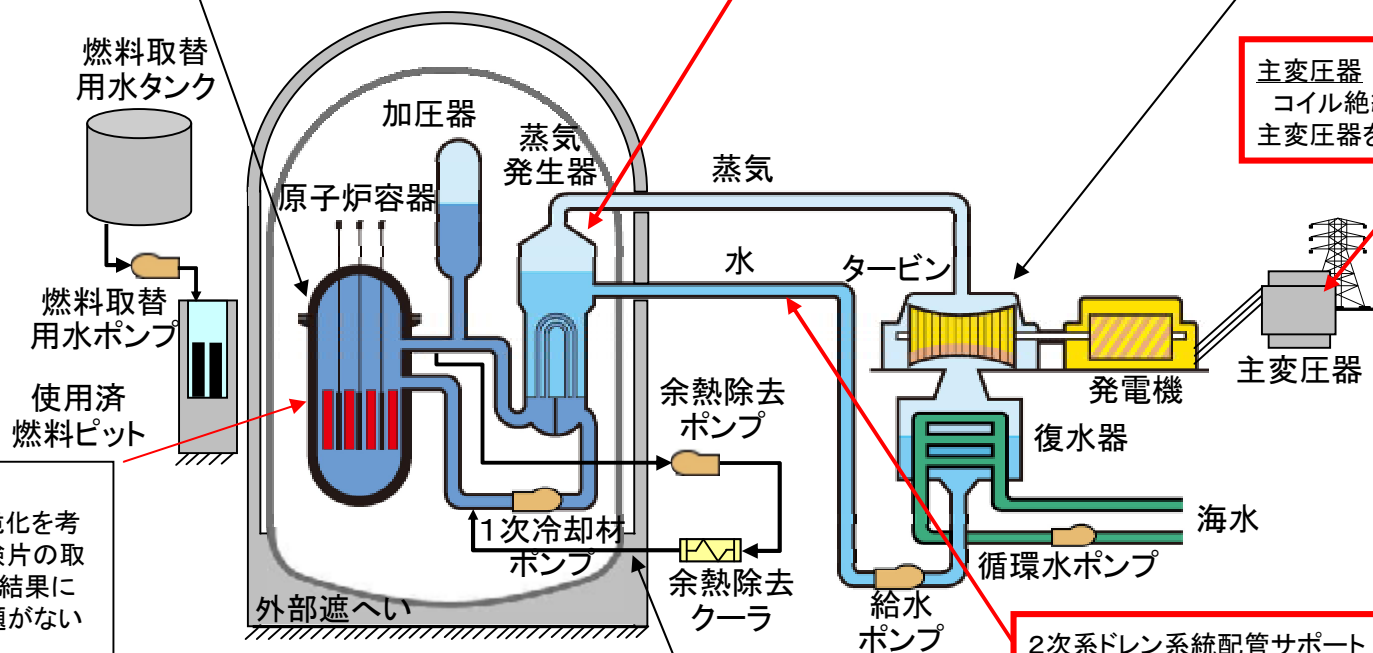
高照射領域での脆化傾向の知見拡充等のため、第5回監視試験の実施計画を策定する。(中長期)

余熱除去系統配管

余熱除去系統の高サイクル熱疲労割れに対する予防保全の観点から、第19回定期検査時(2009年度)に熱疲労を抑制するため、バイパスライン合流部配管ルートの変更を実施。

2次系ドレン系統配管サポート

炭素鋼配管の減肉状態を保守的に仮定しても、耐震性が確保できるよう耐震サポート補強工事を実施する。(短期)



□ : これまでの主な保全活動を示す。

□ : 長期保守管理方針を示す。